

夢 いっぱい!

ボランティアは「**他人の喜び**」が
「**自分の喜び**」にかわる場



市民病院でボランティア活動に取り組む
たけうち けいこ
竹内 桂子 さん (中川六丁目)

今年の6月から週に2日、小野田市民病院の玄関に立って「おはようございます」とさわやかな挨拶で来院者を迎えているのは「病院ボランティア」に参加する竹内桂子さん。ボランティアという立場から、訪れる人が安心して利用できる病院づくりに取り組んでいます。

「今ではおなじみになってきた」という赤いエプロン姿の竹内さんは玄関・ロビーを中心として、来院する人に笑顔で接しています。施設案内をはじめとした日々の活動に加え、玄関前の手すりの追加設置や駐車禁止スペースへのポールの設置を病院側に提案するなど、利用者の視点から院内の環境にも細かく気を配り、早くも、病院にとってなくてはならない存在になりつつあるようです。

活動を始めて4か月、「とにかく、私自身が楽しんでます」と話す竹内さんにとって、ボランティア活動は「『他人の喜び』を『自分の喜び』に変える場」。そんな豊かな生き方を体験できるボランティア活動に、みなさんも参加してみたいはいかがでしょうか。

「始まったばかりの病院ボランティア」

竹内 桂子

竹内さんが、ボランティア活動をはじめた当時に、その意気込みを綴った文章です。

公募者5名(男性2名、女性3名)で6月から始まった病院ボランティア。男性2名は庭木の^{せんてい}剪定、女性3名は1週間日替わりで玄関に立ち、来院者の施設利用のお手伝いをします。

経験のない素人ばかり、不安を抱えながら、玄関に立ち受付案内、車椅子介助などなど、病院を訪れる方のお役に立てればという意気込みで、赤いエプロン(目立つため?)をし「おはようございます」、「お大事に」と声をかけていきます。患者さんの側から、私たちボランティアがどのように映っているのか、少々気がかりですが、あいさつが返ってきたり、「ご苦労様」と言われると、緊張がほぐれる思いです。ほんの小さな気配り、目配り、ちょっとした言葉遣いに気をつけるようにしています。

始まったばかりの素人ボランティア。一生懸命さと熱意はあるのですが、失敗もあります。「あの場合は、ああすればよかった」と反省しながらも、今は看護部長さんのご指導を受けながら、見よう見まねで頑張っているところです。

知識と経験を早く身に付け、少しずつ成長し、一人でやり遂げられる自信をつけたいと思っています。「お役に立ちたい」と心を燃え立たせる私たちボランティアの姿を見て、「私もやってみようか」と活動の輪が広がることを願っています。



▲笑顔で病院訪問者に対応する竹内さん。親しみやすい人柄と赤いエプロンで院内の雰囲気も和らぎます。

ボランティア
募集中

小野田市民病院では、随時「病院ボランティア」を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

- 対象 高校生以上で、週1~2回(1回につき2~3時間程度)活動ができる人
- 活動内容 車椅子利用者の援助、書類記入の手助け、草刈り、^{せんてい}剪定など
- 申込方法 電話で申し込んでください。
- 問い合わせ・申込先
小野田市民病院総務課 (☎ 83-2355)